

令和 7 年度第 2 回 南丹市地域創生会議 議事録

■日 時：令和 7 年 8 月 22 日（金）午前 9 時 30 分～12 時 00 分

■場 所：南丹市役所本庁 4 号庁舎 2 階 会議室

■出席者

委 員：青田委員、井関委員、窪田委員、黒竹委員、廣戸委員、俣野委員、山口委員

（欠席：今西委員、坂下委員、森委員）

事務局：市長公室 國府公室長

市長公室企画財政課 高屋課長、片山課長補佐、足立企画係長、野々村主査、
堀木主事

■傍 聴： 0 名

1. 開会（事務局）

■欠席委員の報告および会議成立確認（設置条例による）

座長（あいさつ）：

お忙しい中お集まりいただき、また 37 事業を評価いただき感謝申し上げます。

本会議では、人口ビジョンと地域創生戦略の進捗状況について KGI・KPI を評価し、今回は第 2 期の最後の年を評価するため、全体の総括もすることとしている。また、創生戦略推進の柱になる交付金事業についても評価をするもの。最近は「EBPM」により、科学的な社会調査をして効果検証をする動きがあるが、金銭面でも人材面でも厳しいものがあるため、本会議では、地域の各界に代表される皆様にお集まりいただき、お持ちの情報により評価いただく形をとっている。よろしくお願いいたします。

地方創生としては、急激な人口減少に伴い、これから 20 年程度は高齢者人口の増加が問題になり、その後は若者も高齢者も含め全世代まとめて減少していくことが想定されているため、急激な変化にどう対応していくのかが問題となる。昨今は外国人に補ってもらえないか、という議論があり、外国人問題に注目が集まっているが、それも人手不足に対応するものの 1 つである。なかなか特効薬的な答えはないが、これからどういう地域を目指していくのか、どのような事業で実現するのか、この会議では皆様からアイデアをいただけたらと思う。

最後に、地方創生は行政だけとするものではなく、民間における取組も含めて推進するもの。多くの取組をヒント・参考にしていただければと思う。それでは、本日の議事に入る。

事務局：

本日の進行スケジュールについて説明

2. 議事

■令和6年度交付金事業の評価確定

座長：

37 事業、各事業に 5 段階評価をしていきたいところ。基本的には数の多い評価を採用すればよいと考えているが、他の意見や質疑応答を聞いて意見を変えていただいても構わない。また、少数意見でもこの場でご発言いただければ記録として残り、事務局でも受け止めていただける。それでは順に進めていく。

■1－1評価：②

座長：

①が 2 名、②が 3 名、③が 3 名。②と言えるような範囲だが、如何か。

A 委員：

担当課の回答から、前提として「森林経営計画の樹立が必要」と思うが、森林経営計画は法律や建付け上、対象は森林組合だけではないと思う。この事業は「前提として森林組合に」という説明もあったので今後もそうだと思うが、森林組合を助けるための補助事業に寄っているところが気になった。法律上は「森林環境税の関係も間伐等を含めお金を使ってやっていきましょう」となっており、それを進めるために森林経営計画があるので、偏っているのが気になる。少し計画等によって進め方を含めて変えた方がよかったんじゃないかと思う。

座長：

実際、現実的な担い手は森林組合以外にいるのか。

A 委員：

園部・八木はそれ程多くないが、美山や日吉で、小規模の林業事業者等が増えている。日吉は森林組合がほとんど伐採しており作業地が少ないと言われているので他地域に出られていると思うが、美山だとそういったことをされようとしている事業者は何件かある。美山町の場合、森林率が 96%で広い森林面積を活用していくため、そういった事業者も進めていかないと、森林組合は人手不足もあってなかなか回っていかない実情もある。例えば、他地域だと薪等にされているところもあると思うので、そういったことも含めて施策的にもう少し森を使うようにしていかないと、伐採適齢年齢が切れている樹木が非常に多い。積極的に活用する方法を考えていく必要があると思う。

座長：

今後の進展において参考にしていただければと思う。1－1 は②とする。

■1－2評価：③

座長：

①と②が合わせて 5 名、③が 3 名だが如何か。地域特性を掘り起こして特産品を作り、外部に売れるようにするのは地方創生の基本的な発想であり、その中で新しいものが出てきて売れているのはよいことでもある。

B 委員：

「短期間で多くの人手が必要」というのがネックかと思う。そこに季節労働者のような形で来てくれる人を呼び込むことを考えていかないと継続していくのは難しい。

座長：

重大な課題である。関係人口を増やして「援農」のように農業の手伝いに入る形かもしれない。人手がないとアイデアとお金だけでは厳しいということであろう。②と③どちらかと思うが如何か。

C 委員：

私は①で評価した。「南丹市の特産品が何か」と言われてもなかなか出てこないし突発的に出てくるものでもない。このような事業自体は実施した方がよいと思って①にしているが、担当部署からの回答をみると「需要と供給があっていない」という話であった。当初、「朝倉山椒自体がいろいろなところから脚光を浴び需要がすごくあるので生産や供給が足りない」という意味だと思ったが、そうではなく、地産地消の観点から「市内で栽培された朝倉山椒を使いたい」という意向があるから取組をさせており「供給が追いつかない」ということだった。どういう位置づけなのか揺らいでしまうとやり方も揺らいでしまう。朝倉山椒をどうやって売っていかうと位置付けているのか、この回答を見て分からなくなった。

座長：

「定着して後押しして自力で出来るように持っていきたい」と思っていたが、「そこまで出来ているか」という話であろう。南丹市も柚子を推したり山椒を推したり、少しずつスポットライトを当てているだけでは少し弱いと思う。あえて②か③かとなればどちらであろうか。定着するためにはお金とアイデアだけの問題ではないとの意見があり、どちらもあり得ると思う。

B 委員：

②で如何か。

A 委員：

個人的には③で評価した。苗木を渡す事にお金を使っているが、産業を育てる意欲や意思が市としてあるのかが見えづらい。それらを含めて「もっと頑張れ」という意味で③と思っている。

座長：

様々課題がある中で「応援の意味を込めて③」との方向性もある。事務局として何かあるか。

事務局：

仰っていただいた意見はそのとおりだと思う。これから地域ブランディングも含めて広げていかなければならないので、今後の南丹市の動きに期待いただくこととして③でよいかと思う。

座長：

それでは 1－2 は③とする。

■1-3評価:①

座長:

①が6名。1-3は①とする。

■1-4評価:②

座長:

②が6名。本事業は「どの分野で創業している人が多いのか」、「継続されているのか」との意見も出ていたところ。工夫しながら開催し常に参加者はいる状況である。起業する人を地域で増やすのは重要な課題で大事なところだが、どのような創業を支援するか、中小企業や零細企業のようなずっと続くものを期待しているのか、事業継承をするような人を育てたいのか、副業レベルとか通販ベース等をやりたい人向けなのか。南丹地域だけではなく、今からリスクを取って起業して自営業者になろうという人は正直少ない状況かと思われるが、そのような中でも、多様なタイプの創業をいただけるよう期待している。1-4は②とする。

■1-5評価:②

座長:

②が6名。特に意見なければ②でよいと思うが、ご発言のある方おられるか。

事務局にお聞きするが、例えば、商談件数と新規取引件数は何を指しているのか。

事務局:

「商談件数」は展示会において行った相談件数、「新規取引件数」は、それらの商談の中で新規取引に至った件数となっている。

座長:

知られざる企業等の産物を後押しして商談にかけていくということであろう。宣伝力がなく埋もれているものをこの事業で発掘して推すことはいいが、上手く発掘してくる仕組みが必要になるので留意して進めていただければと思う。1-5は②とする。

■1-6評価:③

座長:

多いのは②。④で評価された委員もおられるが如何か。

A 委員:

④で評価した。先ほどの朝倉山椒と繋がるが、そもそも何をもってブランドとしているのか、どういったことを推進していくのか、という前提がないのではないか。それをしっかり定義づけた上で支援することが求められる。

座長:

確かに仰ることは頷ける点が多い。兵庫県宝塚市では宝塚ブランドを定義した上で、人・モノ・事を認定するブランディング委員会を設けて、認定したものをホームページやパンフレットに掲載している。そこまでやるほどではないが南丹ブランドをつくるにあたり、まず合意形成があるのではと思う。15年

ほど行政改革の行政評価の頃から関わっていると思うが、その頃から南丹ブランドをつくろう、京都ブランドにすぎらう、と二転三転しながら今に至る。南丹市も合併から何周年か経過し、観光協会も一体化したなかで、真剣に南丹ブランドをつくろうという機運が出てきつつある。5年前に第2期をつくったときには固まっていなかったが、今の視点から考えると整理は必要であろう。

南丹ブランドをつくるという機運を高める段階、それを生み出していく推進のネットワークや体制、結果として南丹ブランドが生まれたか、いずれかで評価いただけたらと思う。

D 委員：

私も③で評価した。最初の時点で南丹ブランドをつくろうという機運は出来たかと思うが、その後の5年間の成果はどうだったのか。先ほどの朝倉山椒も果たして市民に十分認知されているのかと言われるたらそうでもない。南丹ブランドとは何か、市民に根付いているか、その5年間の成果が出ているかと言われると、どちらとも言えない、次期に期待として③とした。

座長：

この事業の必要性はしっかりと認識しながらも運営の中で工夫できる部分もあるのであるであろう。ただ、本当に南丹ブランドはないのか。南丹地域の中で誰が見るような場所や買いたいと思うような産物として美山しぐれや美山牛乳があり、日吉ダムやるり溪に行ったりする。園部のブランドや美山のブランドと思っているだけで、外から見たら南丹ブランドかとも思うが。

C 委員：

住んでいるから分からないということが結構ある。例えば、先日、関西ケーブル局の合同で地元の謎や面白い地域を紹介する番組をつくったときに、本来なら外に売り出している美山かやぶきの里等を出せばよいかもしれないが、「自分達にとっては当たり前だが外から見れば珍しいというものは何なのか」を考えた。「自社の社屋が城であること」を出したところ、私はずっとそこにいるので普通だと思っているが、他所の方は画面に映った瞬間驚かれた。例えば、園部高校も普通に通っているが当たり前ではない。逆に他局も当たり前だと思っていることが私達が見たらこんなによいものがあるのか、と思うところがある。当たり前すぎると思っていたものが実は非常に魅力あるものだったということがあるが、「ブランドが何か」と考えるときには、いろいろな人が集まって発掘していかないと出てこない。あれこれ手を出すのもよいが、それでは「どんなまち」か聞かれた時に答えられないし、「これが一押しなんだ」と自信を持って言えないところが辛いと思う。南丹市をブランド化するのに必要なのは何なのか、もっと楽しく考える機会がつかれるようもっていければよいと思う。

質問に対し詳しく答えていただけたのはよかったが、回答を見て初めて「八木城なんだ」と思った。八木城が素晴らしいものとは思っているが、ブランドにされた理由が分からないので、もう少し視点を絞っていかないといけないのかと思った。折角お金も使うので、これからの期待を込めて評価した。

座長：

繰り返し言うブランドにはブランドをつくろうという意思が集まり、それをつくり出していくネットワークや仕組みが必要であるし、実際に生み出してもそれが可視化されていないといけない。南丹ブランドを改めて定義したり可視化したり住民にも共有されるような形にしていくことが課題であろう。そういった課題を見据えて③とする。

■1－7評価:②

座長:

②が5名。1－7は②とする。

■1－8評価:②

座長:

②が5名。①や④の方もいるのでご意見があればいただきたい。

A 委員:

④を付けたがブランディングと同じで、そもそも「ものづくりのまち」というイメージがない気がした。子どもたちへの普及事業や展示会が実施結果だが、その成果と方向性についてどうかなと思った。例えば、私の子どもが小学生だが「南丹市がものづくりのまち」だとは思っていないと思う。地域性もあるかもしれないが、美山にいと少なくともそのようなことは体験も含め学校教育の中で出てこない。誰に向けてやっているのかあまりメッセージとして受け止めていない、というのが保護者目線として思う。

座長:

学校ごとに違いがあるのかもしれない。南丹全域をとってみると美山では観光・農業・林業、園部や八木は工場等もいろいろあるイメージがあるので、皆が特色を持ちつつ全部で南丹だと教えてくれればいいかと思う。他の委員からも「小学校だけではなくもう少し広げては」等いろいろと意見が出ているが、1－8は②とする。

■1－9評価:②

座長:

②が多いが如何か。25事業所はどうやって選定しているのか、事務局から説明いただきたい。

事務局:

申請のあった事業所が25件。予算の範囲内であったため申請された全てが支援対象になった。

座長:

各委員からは、「知られざる小規模企業が人集めやお金集めに繋がって欲しい」、「行政が少し力を貸して何とか潰れずに頑張れたら雇用につながる」、「出来ればどんどん新しい魅力的な企業が出てきてその成長をお手伝いするような仕組みであってほしい」、という意見をいただいている。1－9は②とする。

■1－10評価:②

座長:

②が6名。①がいなくて③④の委員もいる。③④の意見としては「スクラッチカードがあまり盛り上がっていないのでは」、ということややり方が悪いという意見であろうか。

E 委員:

基本的には商店街の組合がいろいろ企画されるのを支援することかと思うが、季節ごとの催

し物は元気さを感じられるところ。やり方が悪かったというのはあるかもしれないが、考えていただける動機付けになったかと思う。

座長：

もう少し商店街に情報提供して、商店街ごとに活性化したりアイデアが出るような仕掛けをした方がよいのではないか。アイデアづくりが商店街任せになっていないか。

E 委員：

「支援があるからとりあえず何かしよう」というのでは受け身になり企画も盛り上がらないように感じる。やる気のある商店街が手を挙げてくれて皆で考えてくださるのがよいのかもしれない。

座長：

1－10は②とする。

■2－1評価：①

座長：

①が7名、③が2名。現在の状況や今後注意した方がよいこと等あればご発言いただきたい。

B 委員：

私の住む周りでも「移住したい」という声はいろんなところから出ている。市外だけでなく市内での引っ越しを考えている方もおられ、空き家バンクに登録したらすぐに決まることもある。家賃や賃貸の有無にもよると思うが、需要はかなりあると感じる。もっと空き家を活用できたらいいと思うが、現実問題としてゴミ屋敷みたいになっていたり、その片付けの費用は誰がするのかという問題がある。本事業のように、空き家の持ち主だけではなく何とかしないと思っている地域が関わり、空き家の活用に繋がっていけるようにするのはすごく大事なことで思っていて、継続していくことが大事だと思う。

座長：

引き続き今年度も事業をしているので今の意見も参考にしていきたい。2－1は①とする。

■2－2評価：①

座長：

空き家を流動化させるということと同時にそこに導くサポートセンターも大事だということ。先ほどのご発言のように課題もあるということであったが①が8名。2－2は①とする。

■2－3評価：①

座長：

移住された方にいろいろな形での起業・創業をしていただくのが大事かと思う。①が6名、②が2名、③が1名。2－3は①とする。

■2-4評価:②

座長:

①が2名、②が5名、③が2名。「JRでの広報活動により移住する人はいるのか」という質問が多く上がっているが、このJR西日本、南丹市、丹波篠山市、高島市が連携して実施している「おためし地方暮らし」は実際機能しているのか。事務局で聞いていることはあるか。

事務局:

実際に広告を見られて移住された方の数字を追いかけることは難しい。基本的に南丹市に来られる方や関係を持たれる方は関西圏の方が多いので、そちらに広く周知することは南丹市を知っていたく効果があると思う。

座長:

この「おためし地方暮らし」は、世帯が多い、単身が多い、若者が多い等、どのような属性の利用者が多いのか。どのような人に働きかけていけばいいのかご意見をいただきたい。

A委員:

他の地域では、保育園留学や山村留学のように一時的に小学校に来て生活する事業をされており、家族で移住されている地域もある。特に子育て世代に来てもらいたいということが地方創生も含めてあるのであれば、狙うべき層を明確にして短期でなく中長期で滞在できる環境をセットした方がよいのでは。

座長:

中長期というのは2年等か。

A委員:

もう少し短く、何週間から半年、1年でもよい。地域のブランディングにも繋がると思うが、南丹市が子育て等を応援していることも含めて実施するのであれば意味があると思っている。もう少し内容を検討する余地があるかと思い③にした。

事務局:

属性は不明だが、実績としては2世帯2人、3世帯5人、1世帯2人。来ていただきたい方については「子育て世代」がよいとは思いますが、今のところは関わっていただける人を幅広く増やしていく段階でもあるので、目標とするのは子育て世代としつつ広い世代にアプローチしていきたい。

座長:

では2-4は②とする。

■2-5評価:①

座長:

①が6名、②が2名、③が1名。2-5は①とする。

■2-6評価:②

座長:

①・②・③がそれぞれ3名。定住促進のためにハードの補助、空き家への紹介、イベントの実施、集落の教科書もつくりとあの手この手をしているがどうか。②かと思うが、違うご意見はあるか。本事業はどのようなことをしているのか。

A 委員:

地域団体が使える補助制度だったと思う。いろんな移住者支援プログラムをつくったり、美山地域だと言うが味噌づくり等をされている。実施にあたり区長会等で説明されているはずで制度そのものは知られているが、使えない・使いにくい部分に課題があるのではないかと、というのが今回③で評価した理由。必要な制度とは思いますが、制度の見直しであつたり地域のニーズをもう少し聞かれた上で制度設計する必要があるのでは、と思っている。

E 委員:

私も③とした。実際どんなことをされているのか分からなかったが、少しおもてなし疲れというか受け入れる側がよく見せよう・楽しませようとして実際の生活とイベントが乖離しているのではないかと懸念した。そのイベントで体験したことを前提に移住されると、かえってギャップを生じるのではないかと。仮にそういうことがあれば直す必要があるのでは、というところで評価した。好意的に受取られた意見を否定するものではなく、ひとつの参考として今後の事業展開に繋がれば、との思いで意見を出させていただいた。

C 委員:

集落によって状況も違い、馬力のある集落は出来ると思う。そういった見直しは必要だが、このような事業を持続的にやる意味は私も凄く感じているので②と評価した。

座長:

2-6は②と評価するが、先ほどの意見等を重視したいと思う。全体のまとめのようにもなるが、様々な支援の枠組みがつくられていて、国の支援を引き出してしていることはよいと思うが、全般的には商店街、集落や大学など相手のアイデアと馬力に期待しすぎている、と感じる。私自身、まちづくり活動交付金の大学枠も使ってイベントをしているとき、担当課は「応募者がもつとこないか」と言ってくるが、ただ枠組みを作っているだけでは市役所に入出入りしてる者でないと存在自体を知らない。例えば、他にも大学生が何かやりたいことに10万円支援する枠があつたときに、関心のある学生には「ホームページを見て来てほしい」と言うがハードルが高すぎると思う。やりたいがどうすればいいのか等、もう少し行政側でガイドしたり、自分で考えられるようなセミナーをする等の工夫が必要だと思う。

■2-7評価:③

座長:

②が5名、③が3名、④が1名。シティプロモーションは大事だが、お金を使って実施したため、何をやるか、その方法等に課題が残るんじゃないか、という意見が多い。

D 委員：

期待を込めて③にした。南丹市をプロモーションするのは凄く大事だがテーマがすごくコアで、私も玉岩地蔵堂を知らなかった。一般目線で見ると「そこなんだ」という印象で、それを市全体でみると果たしてそれがよいプロモーションになるのか疑問が生じる。市民への問いかけがあったのか、つくる人の中での意見だったのかわからないが、意見の中にもう少し万人受けするようなテーマの抽出も必要だと思う。他にもたくさんあるのではと思ったところもあり、やるのであれば意見を広く入れて練り上げて出すということが必要だったんじゃないか、と思うのでこの評価とした。

座長：

シティプロモーションは、推す内容の戦略やコンテンツづくりに留め、それを基にフィルムコミッションのようなものをつくってテレビや映画等と呼び込む、というのが10年以上前からしていた作戦であろう。自分たちで動画をつくるのも流行りではあるが、テレビの方が影響力があり、テレビで取り上げられると現地に行ったり取り寄せたりする人の動きが未だにあるように思う。リピーターになるほどインパクトのあるよい場所があるのであれば市自体がイベントをして集まってもらう、という手もあるだろう。シティプロモーション自体は大事であろうが上手く回るものになっていたのか、という話である。それにより②か③の評価になるかと思う。

E 委員：

私は③にした。秘書広報課が委託して作成されているのかと思うが、市民の方を支援して市民主体で進める事業とは違い、行政主体の事業になるので少し厳しくやるべきではないか、という今後の期待も込めて少し厳しめに付けた。

C 委員：

シティプロモーションとしては必要だと思うので②としたが、私は南丹市内に住む人間なので、中身を見て「ここだったんだ」という感想。市外の人が見てどう感じているかが分からず難しいが、何か反応が起きているのであればもっとよい評価につながる。皆がコアだと思っていても市外から見て面白い町だと思ってくれたら大成功。結果が見えないから中身で判断すると②かと思うが、③にする意味も分かる。中身の問題とシティプロモーションをどう活かすかという話が混ざると評価ができないが②とする。

B 委員：

私は②にしたが、他の委員の話を聞くと③でよいかと思う。

A 委員：

2-7と2-8にも関連するが、シティプロモーションというか観光地づくりの考え方をしたときに3つのものがないといけないと思う。1つ目はコンテンツ。2つ目はそれを維持したり回していく人がいること。3つ目が受け入れ環境。かやぶきの里もそうだが、駐車場があり土産物屋がありトイレもあるという場所があって初めて人が来て滞留したり何かをすることができる。そのコンテンツそのものを育てたり守る人がいる場所であれば発信が継続される。④と評価した理由としてコンテンツが悪いというものもある。玉岩地蔵堂にも行ったこともあってお話も聞いたことがあるので場所もよく知っているから余計そう思うが、そもそもちゃんと打ち出していくならコンテンツと、受け入れるための環境や維持するための体制や環境整備も必要じゃないか。シティプロモーションの姿勢そのもの、やり方が適切でないのではない

かということで④にした。コンテンツやシティプロモーションがダメということではなく、やり方やどの地域を売っていくのかというときに、そのことを踏まえたシティプロモーションができているかどうかという視点が必要じゃないかと思う。

C 委員：

つくればいいという話ではない。つくること自体が目的になっているなら評価は③。

座長：

取り組んでいただいた皆様には、いろいろな思いとご苦勞をされながらやっていただいたかと思うが、シティプロモーション自体は今どこでもしなくてはならないことと認識されていて、この交付金をいただいてやるということ、コンテンツをつくるというところにも頑張ってもらわないといけないという意見。ここは③とする。

■2-8評価：③

座長：

評価がばらけていて①が1名、②が3名、③が4名、④が1名。山陰本線の中で南丹市のことをPRするのは大事だが何を訴えかけているのか。ふるさと納税にも効果があるならもう少し特化させる、あるいはここは南丹市ということ認識させる等、通勤している人に「南丹市はいいまち」であることをアピールするのか。ずっと続けてきていることはよいが、何を流すのか等、もう少し戦略が明確だとよいのではないか。出来ればその効果が数量的に把握できればよいのであろう。測定するなら、市民アンケートで「山陰本線を利用している人で広告を見たことがある人を聞く」といった内容になるかと思う。「漠然としているのでは」という意見が今回は多かった。ただJRの本数が少なくなってきたり経営も厳しい市としても広告を出して応援して沢山電車が走り、この広告を見て乗客も気分よく行けるようになればいいだろう。2-8は③とする。

■2-9評価：②

座長：

①が3名、②が4名、③が2名。①か②かと思うがいかがか。

F 委員：

②で評価する。

B 委員：

私は②で評価した。お祭り自体継続していただきたいものであるし、他所から結構人が来られていることもある。ただ個人的には、花火大会で座席が有料化し、周りの住人から見えないよう囲いをするような話もあり、南丹市の花火大会もそのようになっていくと嫌だな、という気持ちがある。予算がないから有料席の付加価値を高めるためにしているとは思いうし、お金があれば有料化せずに済むのでは、という意味では支援を続けてもらいたい。

C 委員：

ファン獲得とあるが、市外の方向けなのか市内の方向けなのかが分からない。

座長：

私のは①にしてもいいかなと思ったが如何か。10 年前であれば、花火大会は普通にあったが、今は普通には出来ない状態になってきている。その中で地域振興イベントとしての価値はあると思うし、3 名は①としているところ。

A 委員：

商工観光がするから①ではないと思った。地域振興ならよいと思うが、商工観光なら経済効果を見ないといけない。人流、観光のデータをみると 8～9 割が南丹市かその周辺からしか来ていないので、経済効果的に見るとそんなに高くない。地域内循環という感じだと思う。ただ皆様言われるようにその地域内で盛り上がるとか地域振興の意味があるのであれば、担当課をどこがするのかを含めて考えた方がよいのではないかと。位置づけとして地域振興をしていくならよいのではないかと。と思う。

座長：

活発なご議論をいただいた。これは②とする。

■2-10評価:②

座長：

②が 5 名で③が 4 名。必要性は認められるが、パンフレットをつくるという手段や効果がどうなのか。パンフレットでよかったのか。②の意見が少し多いが③という意見があればいただきたい。

A 委員：

想定した取組は「海外向け観光プロモーション事業」となっているが、配ったのは国内の道の駅である。インバウンド対応をするなら海外向け観光プロモーションもして欲しい、という観光側の意見として③とした。

座長：

道の駅等の配布で一定の効果はあるのだろうか。学生を連れて行くと、京都の北から南までのパンフレットを集めている子もいる。

A 委員：

一定意味はあると思う。特に京都駅でも非常によく出るので、パンフレットを置いておくことで地域がそこに存在するという意味を示すことにはなると思うが、南丹市が今後インバウンドを受けていくということであればそもそも使い方が適切ではないのではないかと。と思う。

座長：

「海外向けにはホームページ等に載ってる」とのことだろうが、それがどれだけアクセスがあったかという質問にも繋がっているであろう。

A 委員：

海外向けに関しては他言語化は今後必要になってきていて、適切な英語の情報については現時点では美山ナビ以外ないはずなので本来はそちら側に使うべきかなと思う。

座長：

12 万部の配布に一定の効果はあるかもしれないが、もう少し数量的に示してほしい。インバウンド対応もいるのではないかという意見があったことを踏まえるが、意見の多い方②とする。

■2-11評価：①

座長：

①が7名、②が1名、③が1名。2-11は①とする。

■2-12評価：③

座長：

①が2名、②が3名、③が4名。年々盛り上がりつつあり、人も集まり観光客の獲得や外部からの人流をつくり出しているかと思う。どのような方が参加しているのか。

A 委員：

リピーターが多かったと思うが、今年度は中止になっていたと思うので、需要や認知度の再検証が必要かと思っていた。

座長：

中止になった理由は何か。

A 委員：

参加者が集まらなかったことによる。

座長：

スポーツで住民が参加し、外部から人流をつくる発想はとても大事で間違いないが、必要な人数が集まらなかったことを踏まえて2-12は③とする。

■2-13評価：②

座長：

①が3名、②が4名、③が2名。基本的には高めの評価になっているがどうか。「収益上の課題があるのでは」という指摘もあるが、参加人数も増えつつあることも踏まえて2-13は②とする。

■2-14評価：②

座長：

①・②・③それぞれ3名ずつ。「スタンプラリーにも参加してみたがまだ魅力を活かしきれていないのでは」、「一部の熱的なファンには魅力的になっているが一般の方への魅力ができていないのか」という意見もある。本事業は、いろいろなサブカルチャーを取り上げて興味のある人に来てもらい認知度を高める、ということだと思うが、サブカルチャーだけに一般の方に興味を持ってもらうのがなかなか難しい気がする。アニメに絞らずサブカルということを取り上げている意欲的な政策だと思うが、如何か。

C 委員：

国際交流会館にスタンプが設置されて多くの人が来られていたので面白いとは思ったが、休館日に来られた人は押せない、という問題が発生したり、映像では園部高校の門の前や美山が出ていたがスタンプを押すのは別の場所だった、とのことがあった。「ファンとして行くなれば映像の場所でもいいのでは」という疑問もあった。思い切った事をするのはよいと思うが、ファンだけに頼り切っている部分があるのではないかと思ったので、満足度を高めてリピーターを増やすような工夫があってもいいんじゃないかと思う。

座長：

参加しやすさや南丹市に訪れた際の利便性には改善の余地がある。課題もあるということだが、今期も継続しているので、それらに留意して進めていただきたい。また、今期の第3期の成長に非常に期待しているという意見が多くあった。そう考えると①か②と思うが、②に同意いただける委員が多かったので2-14は②とする。

■4-1評価:①

座長：

①が3名、②が5名、③が1名。集落に住みたいと思っている人を上手く取り込んでいくことが出来ればいいと思う。①か②かどちらであろうか。

B 委員：

意見は②が多い、②かと思う。実際に集落に住んでいる人が「仲間で楽しみたい」というのが最初にあり、他所からも若い方に来てもらって活性化を実際しているかと思うが、即座に移住に繋がるものではないと思う。引っ越し先としていくつか集落があったときに、こういうことをやっている集落の方が楽しそうと思ってもらえる気はするがアピールするのが難しい。

A 委員：

地域そのものが大きなお金を動かしたり出来ないのだからこういった事業としては必要と思う。他方で、地域とか集落の人たちの認知度を高める動きがいるかもしれない。

座長：

この事業は、先程の大学や商店街と同じく「何かやりたい」と思っている人を後押しするものだろう。4-1は①とする。

■4-2評価:①

座長：

①が8名、③が1名。実情や課題等、情報提供いただけることがあればお願いします。

F 委員：

デマンドバスの周知不足は大きな課題の1つと思う。バス交通網は、南丹市の皆様が「使って守ろう」という利用促進策の方にもこういった交付金等をもっと有効に活用いただきたい。また、交通空白地をなるべく長く出さない努力も必要ではないか。

座長：

運転手確保の課題もあるだろう。遠隔診療や薬をドローンや自動運転車が届けに来るようなこともあり得るかと思い注目していきたい。4-2は①とする。

■4-3評価：①

座長：

①が7名、②が1名、③が1名。4-3は①とする。

■4-4評価：①

座長：

①が5名、②が2名、③が2名。4-4は①とする。他に課題があればご発言いただきたい。

A 委員：

美山は医者の問題がある。特にこれだけ広いエリアでどういう医療制度をとっていくかという中で、単に医者だけではなくて健康寿命を延ばしていくことも重要で、府の事業とも連携していると思っている。南丹市は他のエリアも広い。今後どうやって横展開していくのか、合わせて検討が必要かと思う。

■4-5評価：②

座長：

①が1名、②が4名、③が4名。「あまり件数が多くないため高い評価がしにくい」という意見が多かった。他方で、これまでは集落の教科書をつくる取組自体が、南丹市発で貴重かつ重要な取組なので高く評価するという意見もあった。

A 委員：

私は③の評価。つくるなら一気につくった方がよいのではと思った。また、地域の情報が古くなり更新しないといけなが情報が変わらないのでかつての教科書になっているものもある。デジタル版で都度修正できるようにする等、方法はあると思う。最初につくったモデルはよかったと思うが、それが広がらないところは何か工夫がいるのかやり方を変える必要があると思う。

座長：

交付金を貰って、「その集落の教科書の事業評価を動画でつくる」という話もある。

A 委員：

他の地域でもつくられモデルが広がってきているという意味でいうと、やり始めたときには意味があったと思うが、市やつくられた地域がどのように広げていくのか課題を感じていた。

座長：

①の評価があることと、元々南丹市から発信して他地域に波及したことも考慮して4-5は②とする。今後については、あのクオリティの冊子をこのペースでつくっていたら全然間に合わないのでは、というのが気になるところである。つくろうという機運が高まっている地区が少ないと聞いたこともある。もっと最低限のものだけ随時更新するような形でネットでつくるのもよいのかもしれない。

■4-6評価:③

座長:

①が3名、②が1名、③が4名、⑤が1名。デジタルの推進自体は皆様ご賛同いただけると思うが、どういう戦略でしているか、何ができたかという部分での評価だと思う。現在の地方創生が岸田内閣以来のデジタル田園都市国家構想としてデジタル化を全国的にやろうとしているし、自治体ごとの体力によって、どこまで出来るかわ変わってくる面もあるかと思う。4-6は③とする。

■4-7評価:①

座長:

①が4名、②が3名、③が2名。最近どこかの小学校跡で動きがあったりするか。

C 委員:

ひとつは大学が使われたり、ドローンの会社が入られると聞いている。ただ、地元の人からは、「自分たちの管理物ではない代わりにどうやってそこを借りて使うのか」、「拠点として使いたいという意向はあるがどうすればいろいろな事業者と一緒に共存できるのか」、といった地域の迷いや不安の声を聞いている。その地域で全部を管理するのは難しいが、「地域の方が使うときにどうしたらいいのか」というときに上手くこの事業でカバーできればいいのであろう。いろいろな方に使っていただくというのは賛成だが地域の人も不安を抱えておられると感じる。

座長:

4-7は①とする。

■4-8評価:②

座長:

①が3名、②が4名、③が2名。昨年の実施はどうか。

D 委員:

事業自体は必要と思うので②かと思う。「交付金を申請して利用しにくい」という声もよく聞か、簡単にしてしまうと安易に使われることもあるので、「行政側としてどの様に活用・取得して欲しいのか」、説明をもう少ししていただけたら、地域課題を持っておられる方も活用しやすいと思う。年々審査が厳しくなって去年できたことが今年できなかった、同じ内容だが今年は落とされたという事業もあったりして、その選定がどうなっているのかが見えにくいということも聞くので、続けていただきたいけどその辺りが少し疑問に感じる。

座長:

仰っていただいた意見も踏まえて4-8は②とする。

市民に期待していることや交付金の対象事業は何か、知ってもらふ取組も要るであろうし、審査プロセスも完全にオープンにはできないがある程度分かる透明性も欲しい、という思いも実際あるだろう。

南丹市全般として、「仕組みはつくるが後は応募者任せ」なのが次の課題かと思う。「どう動いてほしい」、「どんな可能性があるのか」ということをターゲットの方に知っていただくことは大切。職員の方々には、地域に情報提供したり地域が活性化するようスイッチを入れてもらう役割を期待するが、

細かくやればやるほど書き方が間違いやすくなる等、形式的になってしまう。その辺りを踏まえ、職員の皆が知識を得たり地方創生に向けての流れをつくる必要があると思った。

■4-9評価:①

座長:

①が7名、③が2名。③にされている方でご意見は如何か。

A 委員:

③にしたが、利用数が少ないのではないかというのが1つ。また、先ほどの市民協働推進事業の補助金審査前には南丹市まちづくりデザインセンターが相談を受ける機能を持っていると思うが、「その後3年間で自立しなさい」というときにどうするのか。支援的なことも含めれば一体的に機能するだろうと思うので機能そのものは必要だと認めるが、市民活動については当初の相談と違う機能を求められているのであろうと思う。NPOの数も減ってきており、今は一般社団法人や違う形での市民活動が起こっている状況からすると役割をそろそろ変えないといけないのではないかと考えている。

座長:

私も何度も相談に行ったりお話を聞いたが、開館日も減ってきたり、当初想定していたような形では回していけなくなっているんだらうと見ている。だからといって誰か指名すれば中間支援組織になるわけでもなく難しいが。4-9の評価は①とするが、上手くいっているかと言われると、開館日数も少なく相談者も減ってきており、何か改善がいるのではないかと考えている。

■4-10 評価:①

座長:

①が6名、②が2名、③が1名。4-10は①とする。

私は大学における募集担当者の役も担っているが、学生のニーズとして最近難しい印象。大学等との連携のあり方についても、京都には大学が40以上あるので市役所が足を運び上手く大学生の力を引き出してやって欲しい、という期待はある。冒頭に申し上げた農産物の援農のようなことも出来ないのかと思う。制度をつくり枠組を開いて相手から来てくれるのを待つという形でこれまでしてきたが、もう少し南丹市側から来てほしい人に声をかけ引っ張りだしてくることができればと思うし、私も関係者として協力できればという気持ちでいる。

■4-11 評価:①

座長:

①が5名、②が2名、③が2名。4-11は①とする。

■4-12評価:①

座長:

①が6名、②が2名、③が1名。何か課題等あるか。

A 委員:

ハード的に課題を持っているところもあり、外部評価が必要。2つの側面があり、南丹市からお金を

出しているが南丹市はどこまでやるのかということと、京都府の事業でもあるのでどういう形で国定公園を発信するのか考えていかないといけない、といった運営側としての思いはある。よい事業だと思っているので全体に普及できるような形にしていきたい。

座長：

ビジターセンターはよい場所にあり、近くで買い物したりトイレ利用して何となく入ってみようと思える施設。入ると綺麗で展示物があつたりよい施設だと思う。4－12は①とする。

■4－13評価：①

座長：

①が4名、②が3名、③が2名。海の京都・森の京都・お茶の京都・竹の京都とされているが、これは京都府ではどんな位置づけになっているのか。

E 委員：

1つ1つの地域が取り組んでおられるところに広域的な効果を発揮できるよう大きなゾーンとして設定している。周遊や滞在で京都市内に留まっておられる方を出来るだけこの森の京都の地域で、それも日帰りではなく滞在いただいて地域が潤うよう取り組んでいるが、各市町の方からも多くの負担金もいただき運営しているため、それぞれの地域にどの程度の効果があるか、しっかり出していないといけないところ。設立から時期も経っているので、お付き合いではなくて納得して出していただけるような実績を出していないといけないという思いを持っている。亀岡の駅前に事務所を設けているが、職員は精力的に日々外に出て営業など事業活動に励んでいる。

座長：

言葉を選ばずに言うと、「海やお茶の京都と比べると森の京都は地味」とは言われている。森の京都については林業、農業、江戸時代やそれ以前の伝統的な暮らしを体験できるポテンシャルがあるように思うが、それを活かしているか着目したい。4－13は①とする。

■全事業の振り返り

座長：

これまでの全事業を振り返って、変更すべき評価はあるか。

(1－2、1－6を再評価。変更なし)

座長：

事務局の方で気になる評価はあったか。

事務局：

特になし。

座長：

では事業評価の議事はここまでにしたい。活発なご議論をいただき感謝申し上げます。

続いて第2期の総括をしたい。交付金事業に限らず4つの基本目標を立てて多くの取組をしてきており、KGIとKPIで基本的には測るが、その指標では測りきれない部分を私たちの持つ情報で総合評価するというものになる。原案について事務局から説明をお願い申し上げる。

■「資料3-1、3-2:第2期南丹市地域創生戦略の総括(案)」について事務局から説明

＜資料に基づき、第1回以降の変更箇所の説明＞

座長：

総括をみると、婚姻数と出生数がDとなっている。座長としては非常に心苦しいが、数字は変えようがない。この中身については如何か。また、今後の方向性については基本的には市の考えの方向性だが、委員から意見があればいただきたい。

考えていただく上で私なりの考えを補足しておく、やはり転入転出の中の社会減が多いということ、婚姻が少ないこと、出生数が少ないことに着目する。これは南丹市の予測が特に甘かったというより、国全体でも人口の減り方が早く仕方がないことでもある。今後5年後に婚姻数と出生数を劇的に増やせるかという難しい情報が次々として出てきており厳しい状況だが、1つの柱として掲げる「女性に選ばれる地域になる施策に力を入れる」ことも、女性の委員が沢山来ていただいているのでお知恵をいただきながらやっていきたい。

全国的には生涯活躍だが、もともと南丹地域にずっと住んでいる方は生涯活躍しているし、むしろ問題なのは都市部で70歳くらいまで働き続けているから農業に入る方が減ってきていることが問題で、2地域居住や関係人口に成り得た方が会社・都市ですずっと働き続けている形での生涯活躍になっている。南丹市の生涯活躍はこれ以上どうするのか。出来る人はしているという話もないことはないがそれ程期待できない。全体的に働き手が減り、将来的に人数も減る中で、教育も保ちつつ産業も活かしつつ地域コミュニティも何とか維持する策を考えていくのが今期の課題だろうと思っている。何か全体的なことでご意見があればいただきたい。

D委員：

今後の方向性として、女性に選ばれる地域になるための施策はとてもいい方向だと思う。南丹市は今まで亀岡・京丹波に比べて子どもに対する施策が手厚いと評判だったが、昨今は亀岡に抜かれており亀岡への転出が増えているという現状がある。施設面やインフラ等は亀岡より劣る部分がある中で、人のよさや繋がりでも今までやってきたところも魅力が薄れ、より選ばれにくくなる状況が進んでいるので、この方向性の中に入ってきたのはよいことだと思う。出生率の低下というのは私の所属する団体でも毎年こんなに少ないのかと悲しい現実だと思っていたし、産むのであれば都会でという方も多いのが現実。そこを市としてもいろいろな分野から手を入れていただけたらありがたいと思う。

座長：

事務局にお尋ねする。あえて書き加えていくとすると、「人口や働き手が減ってくる中どのようなところで人手不足になっているのか」、「どうやって補っていくのか」、ということを考えていかないといけないかと思うが、2期の振り返りでそこまでするのか。今回は指標についてだけ対応して書けばいいのか。

事務局：

今回の2期の振り返りで人手不足の問題まで触れるのは難しいと思う。人口減少下においては、

他所からの関係人口を取り入れ地域の担い手となっていていただく必要があるかと思うので、それらの施策を重点的にやっていかないといけないと思っているが、そちらは 3 期で取り組みたいと思っている。

座長：

総括案はこの案のとおり。外国人のことが抜けていたので補足しておくが、産業の担い手としては既に南丹地域で外国人の労働に頼っている部分が多いので、今後もよき住民になっていただくための施策がいろいろとあるのではと思う。

3. 報告

座長：

今回、評価したのは第 2 期の戦略であり昨年の交付金事業だが、現在は第 3 期の戦略に基づいて交付金事業をしている。名前も新しい地方経済・生活環境創生交付金(第 2 世代交付金)に変更している。次年度はこちらを評価いただくので、ご説明・ご報告させていただきたい。では事務局の方からお願いします。

■令和7年度 新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金)予定事業について事務局から説明

＜資料に基づき令和7年度に上記交付金を活用する予定の事業について報告＞

座長：

確認しておきたいものがあればご発言いただきたい。今年は大阪・関西万博への出展をしたり、南丹市を紹介するパンフレットをつくって万博会場で配布している。他には、割と似たものが並んでいるが、やり方を大きく変えたものはあるか。また、今回の評価は担当課に共有されるのか。

事務局：

基本的には引き続き同じ事業として活用していきたいと考えている。また、ご議論いただいた意見は担当課に共有しながら反映し、ブラッシュアップさせながら事業を進めていきたい。

座長：【座長あいさつ】

第 3 期の戦略は、説明のあった事業をされているが、今年度の枠組みの中で本日の指摘が活かせるものは活かしてもらえだろうし、次年度に向けた予算を組まれるときの参考にさせていただけたらありがたい。皆様においても今の戦略と交付金事業を心に留めながら忘れないようにお過ごしいただけたらありがたいと思う。

今年度も沢山の議事についてご検討いただき感謝申し上げます。過去と比べて少し厳しめだなという感想はもったが責めているわけではなく、同じ委員でもその時の文脈で評価している部分もあるので、それが地域社会や内閣府に誤解されなければいいと思う。真面目にこの制度の主旨どおりに活発に議論いただいた結果だと理解している。また何よりも市でご尽力いただき 37 事業も取って来られたものが可視化され、報告書もまとめられていることで意見も出やすくなっているという部分もあろうかと思う。出てきた課題やヒントを全部活かすというのはなかなか難しいが、市でも発想を変えるべきところは変えていただき、また各界から委員が集まっているので力を引き出す窓口として使っていただき

ながら、新しい全国の先進的な取組も取り入れていただけたらと期待する。それでは事務局にお返しする。

4. その他

・事務局からの連絡事項：議事録の確認について依頼

5. 閉会

事務局：

いただいた評価は公開は勿論のこと庁内で共有して活かして参りたい。次回の会議は来年度になる。開催時期は今年度と同様の6～7月頃を考えており、改めて春頃にご案内をさせていただく予定なので引き続きよろしくお願いします。それでは、以上をもって本日の会議は閉会とさせていただく。活発なご議論いただいたことに感謝する。